エアライン業界で働くことを夢見る学生に、 そのチャレンジのために必要な 英語力を身につけてもらいたい と思っています。

学校法人 Adachiグループ 九州観光専門学校

ふくはら めぐみ

エアライン学科 学科長 福原 恵様



Q1:はじめに九州観光専門学校についてお教えください。

学校法人Adachi学園は、ちょうど今年の4月に創立50周年を迎えることができました。福岡には九州デザイナー学院、九州ビジュアルアーツ、九州スクール・オブ・ビジネス、そして私ども九州観光専門学校の4校、合わせて29種類の学科がございます。また福岡のほかに、東京、大阪、名古屋に姉妹校があります。

そのなかで九州観光専門学校にはスイーツ&カフェ学科、ブライダル&ウエディング学科、ホテル学科、鉄道サービス学科、旅行・観光サービス学科、そしてエアライン学科の合計 6 つの学科がありまして、通常はそれぞれの学科で専門の勉強をし、自分たちの目標とする業界を目指していきます。

ただし英語など、各学科で共通して必要となる内容については、各学科の学生が横断的に集まる形で、レベル別に分かれての学習をしていきます。ですから一つの教室の中で、違う学科の学生たちが一緒に勉強したりもしています。席替えなどもよく行いますので、いろいろな学科の学生達が一緒に仲良く勉強していますね。 それに、土日などに開催される体験入学やオープンキャンパスなどの際には、学生にお手伝いをしてもらっているのですが、学科の枠を超えて、自分たちで手作りパーティーのような企画を立てたりしていまして、学科の枠を超えて本当に仲が良いです。

Q2: 各学科で、英語は共通で学ぶ形になるのですか?

はい。エアライン学科はもちろんですが、それ以外ではやはり旅行学科やホテル学科などで学ぶ学生にとっても英語は必要ですからね。

入学後、まずはベーシックなテストを受けてもらって、その点数でA~Eまでの5つにクラス分けを行います。入学時にもう英検に合格している学生もいれば、そうでない学生もいるわけですが、あまりそれは当てにならないんですね。たとえば中学1年のときに三級を取ったけれど、その後はずっと英語に触れていなかった、といったこともあるので。

Eは英語が苦手な学生のクラスですが、就職活動時に英検やTOEIC®といったものが優先されない学科の学生もいますので、主にそういった学生がこのクラスになりますね。たとえば旅行学科の場合、もちろん英語もそうですし、それ以外の外国語の知識も必要ではあるものの、それよりも国家試験(旅行業務取扱管理者)の受験がありますからね。そういった学生が多くなります。

Q3:エアライン学科の英語はどのようにすすめていくのでしょうか?



エアライン学科の場合、各航空会社の募集要項に英検やTOEIC®といった条件が実際に書かれていますから、そのあたりはシビアなところになりますね。

クラス分けで下位のクラスになった学生は「自分は遅れているんだ」ということを自覚することになります。「私は伸びますか?」といったような相談も受けますが、「伸びるよ、それは自分の気持ち次第だよ」って答えるようにしていますね。

寝食を惜しんで、とまでは言いませんが、頑張れば誰でもレベルは上がりますから。実際に E クラスからスタートした学生が、6 月には「英検 3 級に受かった! 」というような可愛い(小さな)喜びをつかんで D クラ

スに上がる。そしてまたがんばったら、秋の試験で準2級に受かったと。じゃあ次の1月で2級を取らなきゃね、といったような感じで。それくらいぐんぐんと伸びていく学生もいますね。少なくとも下がっていく子はほとんどいないので、留まるか上に行けるかですよね。



Q4:実際にエアライン学科のみなさんが就活を行う上で必要な英語レベルは?



いろいろな航空会社様からお聞きする機会があるのですが、数年前くらいまでは、就活で必須とされるのは英検準 2 級くらいまでだったと思います。ところが各航空会社でカラーがどんどん変わっていって、去年あたりは英検 2 級を持っていない子は履歴書も通らなかったんです。まず書類審査でダメ、だから会うこともできないしインタビュー(面接)にもたどりつけない。

実際に国内の航空会社でも、日本人パイロットの方がメインの会社もありますが、外国人パイロットの方が多いという航空会社もあります。国内のパイロットが不足する中で、外国人のパイロットの方も大勢いらっしゃいますからね。

たとえば170~180人乗りくらいの旅客機で、フライト前のブリーフィング(打ち合わせ)は、だいたいキャビンアテンダントが4

人、パイロット 2 人の計 6 人で行うようになります。パイロットが外国人の方だと、このブリーフィングは全て英語になりますよね。「今日は晴れですよ」とか「現地の天気は……」、「何時間何分のフライトを予定していて、スペシャルインフォメーションは……」といったことを英語で話すわけです。そうなれば、やはり最低でも英検 2 級は持ってないと、コミュニケーションをとるのが難しいでしょうね。外国の小さなLCC(格安航空会社)などの採用条件なども調べていますが、やはりなかなか厳しいです。 TOEIC®で700点以上持っているとか、やはりどんどんレベルが上がっています。

専門学校はやはり就職を目指す場所です。エアライン学科については、就職活動で書類審査を通過するために、そして内定を獲得するためにも、やはり英語関連の資格は必要かな、と。時代と共に変化していっていますが、現在は採用募集の中に英検準二級以上が望ましいとか、二級以上またはTOEIC®600点以上が必須、といった書き方がされています。その条件を満たさないといけませんよね。その職業にチャレンジできるようになるための土台作りとして、英語が一番大事とは思っています。

そのためにも、本当は授業もできるだけ英語を、理想をいえば月曜から金曜日まで、最低1日1コマずつはあって欲しいな、という感じではあります。週に合計14コマというなかで英語に何コマを使うのか。私の経験上、英語は本当に大事なものなので、弱いとか、苦手だなっていう生徒全員のレベルを引き上げる為にも、本当はもっと授業時間が欲しいところですね。

Q5:英検やTOEIC®の受験に向けたスケジュールは?

エアライン学科ではまず先に英検を受けてから、TOEIC[®]をといった形で進めていきます。学生からは入学してすぐに受けたほうが良いですか? とも尋ねられますが、「もうちょっと待った方がいいよ、早くて夏休み後」といったように答えていますね。英検2級を持っている学生でも、TOEIC[®]はまだ受けたことがないという学生が少なくありません。その2級を持っている学生でも、初めてのTOEIC[®]受験は夏休み明けくらいに、といったところですね。

受験回数については、多い学生でも2年間の在学中に3回くらいまででしょうか。毎月受けたいという学生もいますが、それはちょっともったいないかなと思います。 せめて2ヵ月くらいは空けた方がよいでしょうね、それでは点数もあまり変わりませんから(笑)。

Q6:実際にどのような授業をされていますか?

まず朝一、1 時間目にリスニングを行っています。朝からいきなり文法だと目が覚めてないかな、ということで、耳から脳を目覚めさせようと。リラックスして目を覚ましつつ、耳を鍛えていくといった感じですね。速度を変えられる学習用のCDデッキ使って、まずはそのままの音声を聞いてもらいます。ほとんどの学生は、ぽわーんとしている感じですね。次は1.25倍、その次は0.8倍と、速度を変えて何回もしつこく聞かせていきます。こうやって繰り返し3、4回聞かせても、内容的には5割とか7割程度しかわからないという学生がほとんどで、9割方わかったという学生はちょっと少ないですね。

どの語学でも、年齢の低い子供であれば、全てを聞いて頭のなかに入れていこうとするものでしょうが、彼らはある程度の年齢の学生ですからね。ですから「こういうフレーズは会話の中でよく使うよね」というのを、私たち講師が合わせて伝えるようにしていきます。例えばI'm grad to ~とか、must beとか、ネイティブの方が使うような表現ですね。I am trying to ~といったように、どちらかというと食べるとか、歩くといったような動きを表すものはみんな現在形進行形になっているよね、って。ほかにもDo you ~よりもAre you ~の方が多いよね、といったような。日本の学校では習わなかった表現や、中学校高校の文法では知らないようなフレーズです。正直に言って、今までの中学や高校の英語の授業というのは、あまり役に立たないですよね(笑)。

では、いきなりTOEIC®の授業かといえば、TOEIC®は本当の外国人の英語という感じで、彼らがこれまで学んできたものとはかけ離れているのでね。より本物の英語を学ぶという意味で、これまでの英語とは違う、クラスの雰囲気ではあります。これを週に1コマくらいでやるとなれば、本当に1年くらいかかると思うんですね。

そこで、まずは通学の時に聞きなさいとか、映画を字幕で見なさいとか、好きなものに携わりながら英語に触れるとかといったことを推奨しています。今の時代は恵まれていて、無料のアプリやYouTubeがありますからね。英検にしろTOEIC®にしろ、まずは聞くことが大事です。

それからTOEIC®のリスニングは一文が長いですよね。そこで私は、1フレーズ終わったら止めて「何だった?」といったように、細かく拾っていくスタイルで進めています。 ばーっと全部聞かせちゃうと全部わからなくなってしまうので。テキストで1フレーズずつを確かめながら、解答がついているので、最後の方はそれを見ながら、目は答え を見る、耳は聞くといった感じで進めていきます。

一方でリーディングですが、こちらはリスニングよりももっともっと時間がかかりますね。リスニングについてはいつも、「みんな若いしモスキート音が聞こえるくらい耳が良いのだから、伸びるはずよって」ってみんなに言っているんですよ。でも文法はやっぱりコツコツと面倒くさいことをやりながらしっかりと時間をかける。文法は本当に種類がたくさんありますし、解き方のコツやボキャブラリーとなる単語を知らないと進めないので。TOEIC®の授業も英検の授業も、それぞれで登場頻度が多い単語をまず覚えてもらっています。

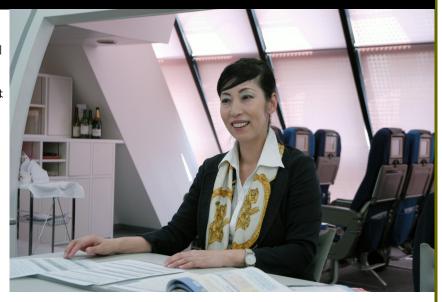
授業は私だけでなくネイティブの講師も担当しますが、やはりネイティブの講師の確保は難しいですね。お互いの条件が叶うかどうか、たとえば常勤になっていただけるのか、単発の非常勤なのかといった点。それにネイティブの先生の場合、生徒達が英語だけでついていけるのかとかいう問題もあります。英語と日本語を半々でコミュニケーションをとるような先生とかがいてくれると良いですね。

そういう意味で、自分自身ももっともっと成長しなければいけないと私も考えて、個人的にTOEIC®のほか、中国語の試験も受けさせていただいたりしています。

Q7:英語を指導する上で苦労される点はどういったものがありますか?

入学してくる学生の英語のレベルがかなり違うというところはありますね。「英語は苦手だけれども、エアラインに就職したい」とか、「接客は苦手だけれども、エアラインに就職したい」という学生も入学してきます。英語を通じてのコミュケーション能力は大事ですが、そもそも言葉自体を発することができないと、英会話の力はなかなか向上しませんよね。だから英語と一緒に成長を、というのを目指しています。しかも一人ひとり違いますからオーダーメイドです(笑)。まさに一人ずつ、ですね。

実際に、英検2級取得済みの学生も入学してくるのですが、たとえば商業高校出身でパソコンなどはずいぶんと勉強してきてはいるものの、高校時代には英語の授業が全くなかった、という学生もいるくらいで。そうなると、中学校1年生の基礎的な英語から学びたいっていう学生もでてきます。「わかっ



た。それならまず英検4級からスタートだね」って、1ヵ月で英検4級を仕上げていく。そうすると次に3級、秋には準2級に受かるという感じで。こういうと、トントントンと上がっていくようですけれども、こっちはもう大変ですね。エアライン学科だけは夏休みの補講とかも無料でやっていますね(笑)。

航空会社への就職を目指すのであれば、さまざまな知識を習得しなければならないのですが、それでも英語の能力の取得については、9割ぐらいの比重を置きたいところです。ただやはり「これも必要、あれも必要」ですからね。日本語で敬語も話せない状況で綺麗な日本語を話す為の授業もいりますので、英語の授業は6~7割くらい。がんばってもう0.5入れるくらい、といった感じですかね。

Q8:授業の際に工夫をされている点などを教えてください。

英語の授業でも、ただただ問題集をやっているだけだと集中力が維持できないので、「私の経験ではね」とか、「機内でこういうお客さんがいて、こういう会話をした時に喜ばれたよ」とか、そういった体験談や失敗談などをするようにしています。学生たちはそういうときだけ、ダンボの耳になって聞いてくれるんですよね。「海外行ったらチップがどうのこうの」とか、いろいろなエピソードをもっています。almostとか出てきたら「私が初めてアメリカに行った時、ホームステイの女の子と一緒にバスケットボールを庭でやっていて、惜しい!って時にAlmost!って言ったのよ。あれね、惜しいって意味もあるんだよ」ってとかね。そういうのを入れながら授業をしています。

あと面接の練習では「先生は24時間営業だから」なんて言っています(笑)。本当に夜中の11時とかに、「先生、これチェックして!」っていうのもありますね。手取り足取りですね、うちは。英語も面接も、学生達とどうしようかああしようかって、それぞれマンツーマンで励ましながら、一番良い道を見つけていく感じです。



O9:TACの教材についてどのような印象をお持ちですか?

TOEIC®用とはなっていますけれども、内容を拝見したら英検を目指す学生にとっても、TOEIC®を受験する学生にとっても、ベーシックな部分での解説がとてもいいなって感じました。結構、気に入っていますね。時には辞書みたい形で「はい、何ページ開けてごらん」というように使っています。たとえば、英検の授業のときに英検スタイルの問題、プリントをやったりしますよね。それで答え合わせした後、間違えたところを確認するときにこのテキストで、「52ページ開けて」みたいなように使っています。ここにすごく細かく載っているよね、最低限これは大事だよっていうことですよって。本当はこれに対する問題が両開きくらい、もうちょっと詰まった感じであるとうれしいんですけどね。それで次のページに解答があって……まぁこれは欲を言えばですけれども。

それと例えば「お休みを挟んだから、今日はユニット1~8をもう一回思い出そうね」といったような形で使うこともありますね。

ほかにも、準2級に受かったけれども、上のクラスに行って2級を目指してみる? といったときに、ギリギリで準2級に受かったという学生もいるのですが、やっぱりまだ 文法に自信がないという感じが残っているんですよね。文法でみんなが苦手にするのが、やっぱり関係代名詞や現在完了形とかですね。そういったところはこの教材 でもう一回、といった感じになるので。特にD、Eクラスの学生には使ってもらっています。またその学生が成長した後、たとえばBクラスに行ったあとでも、テキストをも う一度読みながら確認していく感じです。

Q10:英語以外に授業等で取り組んでいることはありますか?



最近始めたばかりなのですが、現役の大手航空会社の方にお越しいただいて、授業をしていただいています。2コマありまして、1コマは業務用語とか業務のロールプレイといったこと行います。本物の方が動いてくださるので、実際にスタッフになった時にやるべき仕事が見えるという良さがありますね。それと良い意味での緊張感を持っているように思います。別に普段はだらけているといったわけではないのですが、みんな真剣な顔をして急に静かになるので「大丈夫?」って(笑)。それからもう1コマは面接関連の授業をしていただいています。

それ以外の取り組みとしては、韓国語や中国語といったと ころでしょうか。体験入学に参加される高校生の声を聞く と、韓国語の希望者が増えているんですね。最近では中学

校で中国語を習っていますとか、K-POPが大好きだから映画はそのまま見られますとか、レベルもかなり高いんですよね。

やっぱり英語だけではなく、少しは中国語や韓国語を身につけておくのが正解だと思いますし、もしもそういった検定に受かっていたら履歴書にも書けて、説得力があると思うんです。接客の中で、少しの会話くらいは出来たら助かるかなと企業の方は思うはずですからね。

私の考えとしては、やはりみんなにバランスの良い人材になって欲しいと考えています。どういったことでもある程度できる方が理想ですよね。

それと、実際に私自身がCAとグランドスタッフのどちらも経験させていただいて感じたことは、やはり入社する時は勉強、勉強なんですけれども、入ってから本当に大切になるのは体力なんです。足にマメはできるし、同僚でたくさんごはんを食べる人がいたのですが、そうでもしないとすぐに痩せてしまうんです。女の子でもすごくたくさん食べていましたよ。8~9時間歩き続けるっていう運動量ですからね。ですから普段から学生たちには階段使うようにとか、多少は鍛えるようにと言っています。そういう意味では、スポーツをするというのも大事なことだとおもっています。

ちなみに当校では、身体を動かすことによってアドレナリンが出て、集中力が高まるということもあって、ZUMBAというフィットネス・プログラムの一つをカリキュラムに取り入れています。校舎内の音響の整った教室で音楽をガンガンかけてやるんですけど、やっぱりみんなずっと勉強、勉強ですからね。その 1 時間だけはとにかく解放をと。

福岡にあるジムとタイアップして、インストラクターに来ていただいているのですが、このZUMBAには上手いとか下手だとかはないんです。手を上げたり足をステップしたりといった感じですね。学生たちはみんな高校時代の体操着に着替えて……みんな、名前が入っていますけれどもね(笑)。でもみんなすごく発散しているようですし、体力づくりにもなるので。授業で頭が固まっちゃっている状態をリフレッシュさせる効果もあると思います。

なかには一人暮らしを始めたばかりの学生もいますからね。はじめての一人暮らしなど、環境の変化についていけないと、もう栄養が取れなかったりとかね。色んな意味でどんどんマイナスの方向に向かってしまうので、やっぱり汗をかこうってところですね。

これはZUMBAの先生から聞いた話ですが、エアロビクスは「手を上げて一」とか「はい右にいくよー」といったことをインストラクターが言うんですって。でもZUMBAって何も言わないんです。ただそれでも、真似っこをするんですね。先生が手をあげたら、それを見て手をあげる。これは英語も一緒だと思うんです。リスニングもスピーキングも、やっぱり真似っこが大事だと思うんですね。いかにネイティブの英語を真似するかという、その真似というのが語学にも共通するのかなって考えはありますね。いずれにせよ、このZUMBAも新しい取り組みですけどね。すごく楽しいです、はい(笑)

Q11:今後の展開についてお聞かせください。

そうですね。型にはまったようなものではなく、業界人を生み出すために本当に必要なことはどんなことなのか、といったことを考えていきたいと思っています。

たとえばコミュニケーション能力の授業というのは不可欠だと思います。現状で基本が週14コマというのがベースにありますが、本当はそれでは足りないなって。1コマ を追加して行ったりしているんですけれども。あとは、職場見学などもしっかり入れていきたいと思います。現職で働いている方たちの授業はもっと増やしたいですね。

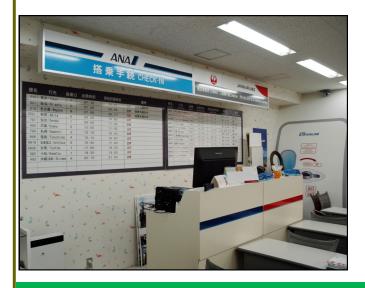
それと大学受験のスタイルが変更になるという点にも注意を払わなければと思っています。大学を目指される方は、早い時期から英語のスピーキングとリーディングを バランス良く、かつ力を入れて取り組まれていると思うんですね。中学校高校の授業といった環境のなかで、これまで以上に取り組むはずです。そうなると、英語がで きる人とできない人との差が大きくなると思います。当校の学生は就活のタイミングで、そういった方々とある意味ライバルになってきます。

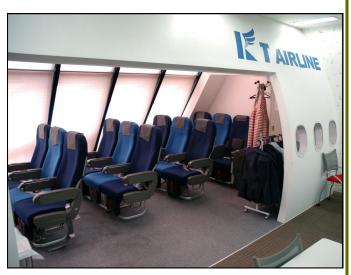
英語力を示すものにしてもいろいろなものがあります。TOEIC®にもいくつか種類がありますよね。本当はそういったものにもチャレンジしていきたい。どれも高得点を取れれば理想ですけども、なかなかそううまくはいきません。実際に今はまだ、TOEIC®のスコアで高得点であることを履歴書に書ける生徒は半分くらいだったりしますから。ですから、まずは全員がTOEIC®の受験に手が伸びるような環境は作っていきたいですね。

そのうえで、生徒一人一人の積極性をもっと引き出していけるような授業をしていければと思っています。

~インタビューを終えて~

今回はエアライン学科の実習室で取材をさせていただきました。教室内は航空カウンターと航空機内の座席を備えており、実務に特化しています。この環境と先生方が学生1人1人をしっかりサポートする体制が「専門的な業務知識を持ったプロ」を輩出している理由であると感じました。お忙しいところ、取材をお引き受けいただきありがとうございます。





「栞」では、専門学校インタビュー以外にも、さまざまな情報発信をしています。 「TAC 専門学校向けサービス」ホームページより栞デジタル版をダウンロードいただけますので是非ご覧ください。









TACでは専門学校向けに様々な「TOEIC® L&R TEST 対策」教材を取り揃えています。

詳細は栞12月号 本誌の「おススメ教材」ページにて確認いただけます。

「TAC 専門学校向けサービス」HP ⇒ https://www.tac-school.co.jp/senmongakko/

TOEIC is registered trademark of Educational Testing Service (ETS). This publication is not endorsed or approved by ETS. *L&R means LISTENING AND READING.

